サロン

第 48 回ヨーロッパ高圧研究グループ会議 (EHPRG) 参加報告

Report on the 48th European High-Pressure Research Group Conference

遊佐 斉

Hitoshi YUSA

聞き覚えのある、特徴あるスウェーデン語での機内アナウンスの後、ストックホルム・アーランダ空港に降り立ったのは 23 時。しかし、まだほんのり地平線が明るい。ここは、北緯 59 度、北欧スカンジナビアの地だ。EHPRG 会議に参加するのは、二度目である。会議は毎年 9 月上旬に開催されるのが定例であるが、今回は、開催時期として、例年より一ヶ月半ほど早い 7 月下旬 (7/25-29) が設定された。あらためて説明するまでもないが、ここは白夜とオーロラの国である。7 月はベストシーズンであることは、10 年ほど前に一年間当地で生活した経験からよく知っている。つまり、これは主催者側の素敵な配慮なのである。会議の開催地ウプサラは、空港よりさらに 35 km ほど北にあり、ストックホルムが首都になる前のスウェーデンの旧都である。街は大学が主であり、メインキャンパスという概念はない。街全体がキャンパスといった感じに、あちらこちらに大学関連の新旧の建物が点在している。その中で、ひとときシンボリックなウプサラ大聖堂 (Fig. 1) が、街の中心にそびえている。学会は、その大聖堂から程近い Norrlands Nation (Fig. 2) という、歴史的建物で催された。ウプサラ大学に生活している学生たちは、出身地に依じて、様々な Nation に属することにより団結しているようで、同窓会的な組織もかねているようである。今回、Norrlands Nation が会場として選ばれたのは、どうやら組織委員の一人 (Prof. B. Johansson) がその Nation に所属しているという簡単な理由によるらしい。

前日夕刻のレセプションに続き、講演は、7/26

Fig. 1. Uppsala Cathedral (Uppsala Domkyrka).

Fig. 2. The conference site "Norrlands Nation".

〒305-0044 茨城県つくば市並木 1-1 物質・材料研究機構
National Institute for Materials Science, 1-1 Namiki, Tsukuba, Ibaraki 305-0044
Electronic address: yusa.hitoshi@nims.go.jp

朝より始まった。組織委員長の Prof. R. Ahuja の挨拶のあと、スウェーデンおよびウプサラ大学の紹介から始まった。リンネ、オングストロームなどの多くのノーベル賞受賞者がウプサラ大出身であり、物質・材料研究のためのオングストロームラボという、大きな研究所を郊外に有することなどが紹介された。Dr. H-K. Mao による基調講演の後、3つのパラレルセッションに分かれて、会議は始まった。大講堂を含め、いたって小さな会場ではあったが、アットホームな雰囲気の中で進行した。もっとも参加人数も AIRAPT などと比べると小規模で、全員の顔が把握できるくらいのものである。おそらく高圧討論会よりも小さいであろう。しかしながら、毎年、ヨーロッパの各国を持ち回りでおこなうこの会議の雰囲気は、私にはちょうどよかった。講演の特徴としては、計算に関する講演が目立ったこと、流体関連やバイオおよびフードサイエンス関連の発表数が多かったことがあげられる。これは、今回の組織委員長が計算屋であることが多少影響していると思われる。全日程を通して一般講演の数は 75 件（うち招待講演は 16 件）であった。ポスターセッ

ションは講堂を連絡する通路などのスペースを使って 2 日間のみおこなわれ、全部で 103 件であった。ポスターのコアタイムは遅く 17~21 時であったが、日暮れ時にはほど遠く、飲み物を片手に終始リラックスした雰囲気の中、活発な議論が交わされていた。

バンケットは 4 日目にストックホルムのヴァーサ号博物館へのエクスカージョンの後、ウプサラの会場に戻っておこなわれた。バンケット会場は講堂にテーブルを並べ変えて急ごしらえされたものだったが、元々重厚な部屋なので良い雰囲気であった。バイキングの国だけあって、大きな銅鑼が司会進行の要所で打ち鳴らされていたことが実に印象的であった。都合により最終日を待たずして、帰路に着いたが、空港へ向かう途中、ウプサラ大聖堂の尖塔がいつまでも見え、今度はいつ訪れることができるだろうかとバスの中で感傷にひたった。次回の EHPRG はハンガリー・ブタペストに於いて 2011 年 8 月 28 日~9 月 2 日の予定で、ブタペスト大学 Prof. L. Smeller 実行委員長のもと開催されることとなっていることを付け加えておく。